

# 学習指導案

海津明誠高等学校

実施日	令和 年 月 日 ( )	実施時限	第 限	使用教室	ホームルーム教室
科 目	ビジネス情報	指 導 者	中島 匡弘	指 導 学 級	選択者
使用教科書	ビジネス情報 (実教出版)	使用教材	教科書、プロジェクター、Surface (MetaMoJi)		
単 元 名	表計算ソフトウェアの活用				
単元の目標	応用的な分析方法を学ぶ				
時 間 配 当	3時間	本時の位置	2時間目		
本時の主題	分析方法を学ぶ その2				
本時の目標	① PPM分析方法を理解させ、商品を4つのポジションに分類させる。【知識・理解】 ② 分析結果から今後の戦略を考え、意見をもつことができるようにする。【思考・判断・表現】				
指導の内容・ねらい	学習活動			指導上の留意点・観点別評価	
<導入> 10分 ・前時の振り返り  ・本時の活動を確認	・前回学習した分析手法を振り返る。  ・本時の目標を確認する。 ・MetaMoJiに配布されたPPM分析の一部が書かれたヒントカードを確認し、設定時間内に内容を覚える。			・前回の学習方法を振り返られるように留意する。 ・全4種あるヒントカードをランダムに1種ずつ配布する。(事前に1種ずつの配布先を設定) ・覚える時間をタイマーで管理する。	
<展開> 35分 ・分析方法をまとめる  ・PPM分析を用いた意思決定	・配布されたグループ学習ページに各自が覚えたヒントカードの内容を編集し、グループで分析表(ワークシート①)を作成する。 ・他のグループの分析表(ワークシート①)と比較して、確認する。  ・配布された個別学習ページ(ワークシート②)の課題に取り組む。			・配布直後は“生徒同士で見られない”に設定しておく。 ・編集が終わり始めたら“生徒同士で見られる”設定に変更し、生徒同士で確認できるように設定する。	
課 題 : 現状を分析して、今後の戦略を考える。					
・意見交流	《手順1》空欄に、PPMの分類やあてはまる商品名を編集する。 《手順2》現状を分析し、継続・成長をしていきたい商品と撤退・縮小を考える商品を選択する。 《手順3》分析結果から今後の戦略を考えて、意思決定を行う。 《手順4》分析結果と今後の戦略についてコメントする動画を作成する。 ・作成した動画をプロジェクターで視聴し、意思決定の内容を交流する。			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     評価の観点                 </div> ・PPM分析方法を理解させ、商品を4つのポジションに分類させる。 【知識・理解】 ・分析結果から今後の戦略を考え、意見をもつことができるようにする。 【思考・判断・表現】 ・提出先を指示する。  ・発表内容についてコメントや補足をする。	
<まとめ> 5分 ・本時のまとめ	・配布された確認問題に取り組み、提出する。			・問題を配布し、提出先を伝える。	

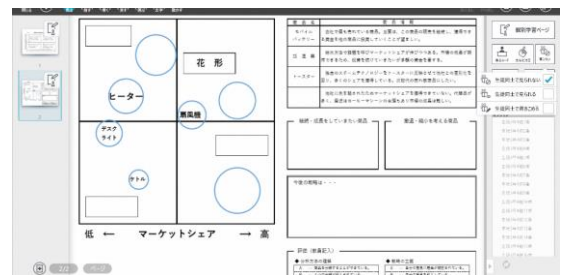
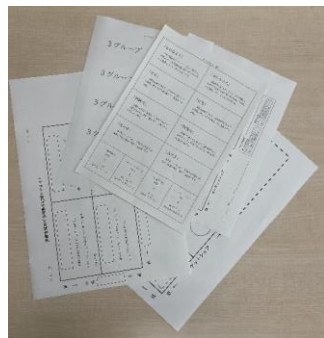
## 【 Me t a M o J i の活用場面 】

- ・ ヒントカード、ワークシートのデータファイルでの配布・回収
- ・ 共通のワークシートのデータファイルを利用したグループ学習
- ・ 動画ファイルの作成・回収

## 【 Me t a M o J i 活用の意図と予想する成果 】

従来、プリントやカードを印刷・作成してきた過程を、Me t a M o J i を利用したデータファイルの配布に置き換える方法での活用を考えた。ペーパーレスや準備時間の短縮、回収したワークシートの管理など活用したい方法が考えられた。ワークシートだけでなく、写真や音声、動画などでも回収できることから、表現方法や評価の管理についても利点を感じられた。

### 《 従来の印刷物 》



### 《 既存のファイルから読み込んで使用 》

また、Me t a M o J i のグループ学習機能を利用して、ジグソー法での展開時間を短縮できるのではないかと想定した。グループをあらかじめ設定しておくことで操作における時間短縮が可能であり、対面でのグループ活動のような移動時間が無くなることから課題に取り組む時間を確保できると考える。

### 《 ワークシートをグループ学習用に設定 》



### 《 グループ分けの登録 》



## 【 予想される課題 】

- ・ タブレット操作の習得だけにならないようにしたい。生徒の活動内容はもちろんだが、教員側も評価が適正にできるよう、機器操作にとらわれないように留意したい。
- ・ 生徒も教員もタブレットの操作、Me t a M o J i の操作にどれだけの時間がかかるのか、システムが円滑に動作するのにどれだけの時間がかかるのかなどを想定して授業を準備する必要がある。Me t a M o J i だけでなく、動画編集やForms など複数のアプリを同時に使用できるのか、クラス全員が回線を使用したときの速度なども検証し、1時間の授業内容を調整したい。